

令和6年度 小平市立小平第十四小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重の精神を基調に、心身共に健康で、知性と感性に富み、生涯学び続けようとする国際性豊かな日本人の育成を目指して、次の目標を掲げる。
 ◎たくましい子 ○やさしい子 ○考える子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 夢や希望を育む学校～笑顔あふれる十四小～
【目指す児童・生徒像】 「たくましい子」(1)自分で考え判断し、粘り強く取り組む子 (2)自らを律しつつ、協働できる子 (3)明るく健康で、すすんで運動に親しむ子
【目指す教員像】 (1)児童に学ぶ楽しさや分かる喜びを味わわせ、児童のよさや個性を伸ばす教員 (2)切磋琢磨して授業力を高め結果を出すことで充実感をもてる教員 (3)保護者・地域から信頼される教員

前年度までの学校経営上の成果と課題
【成果】学校経営協議会の活用、学校支援ボランティアなど、保護者・地域との連携の充実。学校の教育活動の広報活動の活性化。児童や保護者に寄り添った組織的対応。
【課題】児童の学力の差に対する個別対応。体力の向上。配慮を必要とする児童への適切な支援及び保護者や関係機関との連携、挨拶ができる習慣が身に付いた児童の育成。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
確かな学力の定着	①返事・挨拶、聞き方と話し方、用具の準備の徹底 ②授業の開始時刻、終了時刻の厳守 ③明確なめあてと振り返りのある授業、家庭学習による定着	3.1	3.6	・年度後半になるにつれ、授業規律の定着が見られた。 ・挨拶や姿勢、話の聞き方については更に定着を図る必要がある。 ・目直を中心に、中休み昼休み後は児童に声掛けをして、授業に遅れないよう組織的に動いている。 ・授業の振り返りは、口頭や紙面だけでなく、学習者用端末を上手く活用できている。	3.3	3.7	・ノート指導等教員からの声掛け、点検がなされているが、学習用品忘れや指示に対して取り組みない児童も一部見られる。こうした児童へのきめ細かい対応策が不可欠だと思われる。 ・端末を使っているんな取り組みをされていることを知ることができた。手書きで書くことに苦手意識がある児童のハードルが下がると思う。ロイノートの活用事例についてもCS等で見えてきた。 ・PTAで購入いただいた椅子キャップで、こどもたちは椅子のガタガタ音もなくなり、話を聞かずに集中できるようになったと思う。 ・文章を書く機会が多くなり、書く量は増えてきた。更にもう少し長い文章を書く機会が増えてほしい。	・校内全体で組織的に指導することで話の聞き方や話し方については一定の定着が見られた。しかし忘れ物については更に定着できるよう努めていく。 ・中休み、昼休みは通常の教員が積極的に校庭へ行き、休み後は児童に声掛けをして、授業の開始時刻が厳守された。 ・児童にめあてを明確にもたせるよう工夫しながら授業を展開している。児童の課題を捉えそれを保護者に伝えながら家庭学習の定着を図った。
	①年間3回の管理職や教員による授業観察及び教員相互の参観 ②児童の主体性を引き出し、学習者用端末等の活用等を含めた、児童の表現力を高める指導の工夫 ③対話的な学習活動を重視した単元全体を見通した授業の実施	3.5	3.6	・教員が互いに授業を見合う意識を高めて、学期ごとの授業公開月間を開いている。 ・学習者用端末ではどの学級でもロイノートの活用が充実しており、口頭での発言が難しい児童もロイノートを自分の考えを表現している。 ・児童が対話したくなるような教材や資料を提示するよう努めている。	3.4	3.6	・教員全体で児童のことを共有していると感じる。 ・朝の学校の様子(専科教員の子どもの出迎えや挨拶、靴箱整理の指導など)、とてもよい。 ・先生方は担任のクラスの子どもたちだけでなく、全校の子どもたちの実態を把握されていて本当に頭が下がる思いである。 ・生活指導を中心に、きめ細かい対応がなされている。さらに教職員間で連絡を密にしている。 ・はじめや道徳教育についての保護者アンケート評価の結果が正しいの課題から、先生方が学年をこえてチームで丁寧に対応されていることを保護者にも知らせる手段が要検討。 ・下校時の昇降口の児童フォローがもう少しほしい。	・授業観察の教科や時間について、当日に職員室黒板や職員室入り口にも掲示し周知することで、教員同士互いに授業を見合う意識が高まった。 ・どの学級でも学習支援アプリ(ロイノート)に共有効果的に活用できた。授業だけでなく家庭学習でも学習者用端末の活用を充実させていく。
	①こまめな実態把握、相談・連絡・報告・記録 ②校内組織の活用と連携による迅速な対応	3.5	3.7	・週1回実施しているブロックごとの気になる子の共有や生活指導実態調査等による実態把握、「相談・連絡・報告・記録」と全職員が徹底している。 ・定例の校内委員会だけでなく必要に応じて臨時でも早く校内委員会を開き、特別支援教育コーディネーターを中心に職員全体で共有していく。	3.6	3.6	・教員全体で児童のことを共有していると感じる。 ・朝の学校の様子(専科教員の子どもの出迎えや挨拶、靴箱整理の指導など)、とてもよい。 ・先生方は担任のクラスの子どもたちだけでなく、全校の子どもたちの実態を把握されていて本当に頭が下がる思いである。 ・生活指導を中心に、きめ細かい対応がなされている。さらに教職員間で連絡を密にしている。 ・はじめや道徳教育についての保護者アンケート評価の結果が正しいの課題から、先生方が学年をこえてチームで丁寧に対応されていることを保護者にも知らせる手段が要検討。 ・下校時の昇降口の児童フォローがもう少しほしい。	・気になる子の共有については週1回を欠かさず、そこで挙がった件を職員夕会等で共通理解するなど、「相談・連絡・報告」と全職員が徹底し組織的な対応ができた。 ・年度初めの保護者会でいじめ対応の取組を伝えたが、保護者アンケートではその取組について「わからない」が依然30%を超えている。いじめを含め生活指導朝会の様子でブログで公開し、保護者の「わからない」を減らしていく。
豊かな人間性の防止	①挨拶・返事、靴箱の整理、身の回りの整理整頓、安全で清潔な行動様式の確立。 ②全教職員による情報の共有、統一した指導 ③ねらいを明確にした週1時間の道徳授業の充実	3.5	3.6	・毎朝専科教員は昇降口でこどもたちを迎え、挨拶や靴箱の整理について指導しており、そうした成果が表れている。 ・生活指導夕会や気になる子の共有の時間を大切にして、問題が生じた際には組織的に対応できている。 ・児童一人一人が深く考えられるよう、道徳ノート等に考えを書く時間を確保する。	3.6	3.5	・朝の昇降口や挨拶運動での挨拶は、挨拶を交わそうと意識している児童が比較的増えてきたが、普段の生活においてはまだ定着されていない。繰り返し指導していく。 ・昇降口は登校時だけでなく下校時についても見られるよう各教員が意識する。目直のドア旋錠も徹底する。	
	①運動への動機付けになる体育授業の実施 ②体育的活動の意図的・計画的な実施 ③養護教諭による健康に関する授業の実施	3.3	3.7	・校庭や体育館においても、授業1単位時間の流れをホワイトボードで提示し、掲示物等により運動のめあてを確認する。ICTを利用して自分の動きを知り主体的な運動へつなげる。 ・体育委員を中心に様々な運動スペースを中休みに定期的に設け、年間を通じて体力向上の意識をもたせる。長縄や縄跳び週間も実施していく。	3.6	3.6	・学童農園での体験活動はどれも充実している。 ・中休みの時間に学校の近くを通ると、元気に遊ぶ声が聞かえる。実家の森(90歳)は、昔からこどもたちの声が聞かえることをほほえみ笑っている。 ・給食について子どもたちが話し、給食を楽しむにしていることがわかる。 ・給食の献立やその作り方が載っているのは閲覧して楽しいし、夕飯の参考になっている。 ・休み時間の活動は充実しているように感じるが、その割に保護者評価が低いので、発信に工夫が必要である。先生方が色々な工夫で指導されているのを知っているのもたっとなんか嬉しい。	・体育主任を中心に、体育科授業のポイントや指導教諭等の授業参観で得た情報について夕会後やOJT研修で定期的に共有を図った。 ・中休みには様々な運動スペースを計画的に展開し、運動の動機付けや体力の向上を図った。そうした運動委員会などの児童の活動もブログ等で発信していく。 ・給食については、栄養士が児童に直接関わるだけでなく、毎日の放送やブログの発信を通して充実した食育及び保護者への情報発信ができた。 ・今年度も学童農園を利用した大変貴重な体験、学習をさせていただいた。感謝の気持ちを忘れず、その思いを表現する学習も継続していく。
健康でたくましい心身の育成	①栄養士の専門性を生かした食育授業の実施 ②学童農園での体験活動の充実	3.3	3.6	・ホームページやお昼の放送で給食について毎日のように伝えられたこともあり、成果指標が高くなった。 ・学校経営協議委員の方が学童農園の担当になってくださっており、毎年充実した体験学習を実施してくれている。	3.6	3.6	・学童農園での体験活動はどれも充実している。 ・中休みの時間に学校の近くを通ると、元気に遊ぶ声が聞かえる。実家の森(90歳)は、昔からこどもたちの声が聞かえることをほほえみ笑っている。 ・給食について子どもたちが話し、給食を楽しむにしていることがわかる。 ・給食の献立やその作り方が載っているのは閲覧して楽しいし、夕飯の参考になっている。 ・休み時間の活動は充実しているように感じるが、その割に保護者評価が低いので、発信に工夫が必要である。先生方が色々な工夫で指導されているのを知っているのもたっとなんか嬉しい。	・体育主任を中心に、体育科授業のポイントや指導教諭等の授業参観で得た情報について夕会後やOJT研修で定期的に共有を図った。 ・中休みには様々な運動スペースを計画的に展開し、運動の動機付けや体力の向上を図った。そうした運動委員会などの児童の活動もブログ等で発信していく。 ・給食については、栄養士が児童に直接関わるだけでなく、毎日の放送やブログの発信を通して充実した食育及び保護者への情報発信ができた。 ・今年度も学童農園を利用した大変貴重な体験、学習をさせていただいた。感謝の気持ちを忘れず、その思いを表現する学習も継続していく。
	①小中連携共通「こいだらこれだけは」のユニバーサルデザインの充実 ②一中校区「推薦図書60冊」の活用	3.2	3.5	・今年度より毎週金曜日の朝学習の時間を朝読書とし、児童にも定着しつつある。そのためアンケートでは特に児童の成果指標が昨年度より4ポイント以上上昇した。また、保護者による読み聞かせの依頼や読み聞かせコーナー及び読み聞かせリストのホームページ更新は継続しており、引き続き保護者や地域にも発信していく。	3.6	3.4	・ゲストティーチャーの活用は充実している。特に防災授業は充実している。十四小地域は、学校への地域の協力が素晴らしい。 ・ホームページが充実している。 ・読書の習慣、関心も高まっている。読み聞かせに尽力している甲斐がある。 ・保護者評価で、地域との連携について評価が高かったことは、CSナンバーとしては嬉しいこと。とはいえこれが持続可能な活動かという点では不安。後進の育成が課題だと考える。 ・先生方は異動もあり、担当する学年も毎年変わるので、地域連携の活動についてはしっかりと引継ぎをして、効率よく質の高い活動が継続できればと思う。	・「こいだらこれだけは」は、小中連携や授業観察等で定期的に確認した。校内委員を毎月開き、ユニバーサルデザインの視点も含め合理的な配慮について共通理解した。 ・毎週金曜日の朝学習の時間は、朝読書として定着した。司書教諭を中心に、今後も児童が読書に親しめるよう工夫していく。
保護者の連携・地域	①週5回以上の学校HP更新や学級通信等の広報活動の充実 ②地域の人材・自然・施設等を活用した授業の各学年2回の実施 ③地域に貢献する授業の各学年1回以上の実施	3.2	3.6	・ホームページは給食の写真即日アップ、各学年は週1回以上更新することを目標に取り組んでいる。 ・オリパラや総合的な学習の時間、文化庁や地域の協力を仰ぎ左記の目標達成を目指す。 ・ゲストティーチャーへのお礼う形の授業から地域貢献型の授業につなげていく。	3.4	3.5	・定期運動チャレンジデイはよい。 ・先生方は放課後も保護者対応に大変だが、働き方改革に積極的に取り組んでもらい、今後教員を目指す人が増えるきっかけをつくらせてほしい。 ・働き方改革は、時間的な問題ではなく、学校の中の人間関係が温かかったら、楽しく仕事ができる。十四小は、そんな学校だと思ふ。 ・授業時間が以前と比べると減っているので、先生方の過剰な業務に少しはアラスになっているのではと思うが、保護者目線からすると、なぜかと思う人がいるかと考える。先生方の心も守れるような環境整備、情報発信に、CSしてできるところがいろいろ、今後も頑張りたい。	・引き続き学級だより、ホームページはタイムリーに情報発信を行い、保護者の教育活動への関心を高めていく。 ・学校経営協議員や商店街等の地域の皆様のご協力により地域の人材や自然、施設等を活用した授業が充実した。次年度以降も各教科や総合的な学習の時間のカリキュラムに位置付けていく。
	①無駄や無理を省く校務分掌の改編 ②定時退勤チャレンジデイの定期的な設立	3.1	3.1	・昨年度、校務分掌の改編に取り組み、今年度の業務はこれまでスムーズに進めることができています。 ・定時退勤チャレンジデイを行事予定に位置付け、定時退勤を意識させるとともに、定時に退勤することはチャレンジすることではなくそれが通常だという風土を醸成していく。	3.1	3.2	・今年度は校務分掌改編の1年目となり、組織的に進めることができた。引き続きしっかりと行い、さらに効率よく進めていけるようにする。 ・定時に退勤することは通常だという風土を醸成していきながらも、次年度も定時退勤チャレンジデイを行事予定に位置付け、意識付けをしていく。	
働き方改善・業務改善	①校内OJTの計画的な実施 ②小平市や東京都等の研究会や研修会への積極的参加と学びを生かした実践	3	3.1	・OJT担当を位置付け、担当を中心に年間計画を立てさせる。月1回の実施を定例化して取り組む。 ・都の研修や研究発表だけでなく、指導教諭や教師道場の授業公開も積極的に周知していくことで、積極的に参加する教員は多い。	3	3.2	・今年度立てたOJT年間計画をもとに次年度は年度当初から実施し、年間計画についてもブラッシュアップを図る。 ・指導教諭や教師道場の公開授業を参観し、校内に還元できるようなOJT研修にも引き続き取り組んでいく。	